



公立中学校教師から見た 子ども支援の課題

三郷市立南中学校 教諭 岩田彦太郎

A decorative graphic on the left side of the slide. It features a dark blue vertical bar on the far left. A black arrow points to the right from the top of this bar. Several thin, light blue lines curve downwards and to the right from the arrow's tip, creating a sense of movement and flow.

自己紹介

- ▶ 1973年生まれ（50歳）
- ▶ 越谷市出身
- ▶ 1996年4月 埼玉県公立中学校教諭として採用
- ▶ 教職28年目
- ▶ 現在の勤務校は4校目
- ▶ 教科 社会科
- ▶ 今年度は中学2年生の担任
- ▶ 部活動 初めての吹奏楽部

公立中学校教師から見た子ども支援の課題

- ① そもそも、学校（教師）は何を目指しているか。
～教師にとっての子ども支援
- ② 学校が引き出しうる子どもの成長とは？
- ③ 支援を必要とする中学生たち
- ④ 学校・教師の「限界」
- ⑤ これから変革していききたい学校のあり方



①そもそも、学校（教師）は何を目指しているか。
～教師にとっての子ども支援

- 自分の生き方を自己決定できる力を育むこと。
（自己決定力・学びに向かう力）
- 自分と同じように他者も自己決定できることをお互いに認め合う感度を育むこと。（相互承認力）



②学校が引き出しうる子どもの成長とは？

- 集団の中でこそすすむ自己実現
- 共同的な学習
- 自己決定の場を多く設定できる学校行事

③ 支援を必要とする中学生たち

➤ 不登校

理由は千差万別。本人も言語化して説明できない。

過去の事例 1 修学旅行→成人式

過去の事例 2 自転車に乗れなくて

④学校・教師の「限界」

- 一人一人複雑な背景
- 物理的な時間の問題
- 相談室もフル稼働
- 「壁」が重なると手が届かなくなる
- 専門家が少ない



⑤これから変革していきたい学校のあり方

- 中学生の保護者になって初めて実感した負担
- 子どもの参加する権利をもっと実質的なものに